# 看護学科 2年前期 専門基礎科目／専門科目

1. 母性・小児疾病治療管理論

2. 精神疾病治療管理論

3. 放射線治療管理論

4. 解剖生理学特論

5. 公衆衛生学

6. 国際・災害看護活動論

7. ケアマネジメント論

8. 精神看護学援助論Ⅰ

9. 成人看護学援助論Ⅰ

10. 成人看護学援助論Ⅲ

11. 高齢者看護学援助論Ⅰ

12. 高齢者看護学援助論Ⅱ

13. 小児看護学援助論Ⅰ

14. 母性看護学援助論Ⅰ

15. 基礎看護学実習Ⅱ

16. 看護研究Ⅰ（看護研究の基礎）

看護学科　　2 年

| 科目名: 母性・小児疾病治療管理論 | | | | 担当教員 氏名: 吉本英生(母性)<br>高畠琢磨、長森万里子(小児) | |
|---|---|---|---|---|---|
| 単　位 | 開講時期(年次・期) | 科目の区分 | 授業方法 | (卒業要件)<br>必修／選択 | 備考 |
| 1 | 2年次　前期 | 専門基礎科目 | 講義 | 必修 | |
| 実務経験を用いてどのような授業を行っているか: | 臨床医が経験を活かして、疾患、治療の理解と現状について教授する。 | | | | |

| 授業科目の学習教育目標の概要: | キーワード |
|---|---|
| ・新生児から思春期にかけての小児期における看護援助をするために、小児期における疾患の特徴および精神・社会的問題を理解する。・妊娠・分娩・産褥の正常な経過と各期における異常および婦人科疾患について病態を理解し、医学的処置について理解する。 | 小児・成長・発達・疾患・環境<br>妊娠期・分娩期・産褥期・新生児 |

授業科目の到達目標

| 学習教育目標 | 自己形成を進める行動目標<br>(福短マトリックスで示される番号) | 1．2．3．4．6．7 |
|---|---|---|
| A　知識・理解力 | 胎児・乳児の成長に影響する母体と小児期の成長発達の正常と異常について理解できる。 | |
| C　論理的思考力 | 連続した成長発達に及ぼす影響を複眼的、論理的に整理できる。 | |
| E　自己管理力 | 学生自身の予防接種や罹患した病気を通して小児期の健康管理について考えることができる。 今後の自らの妊娠・出産について考えることができる。 | |
| G　倫理観 | 弱者としての妊産婦および小児を守り、その環境を健全にする意識を持つ。 | |
| | | |

成績評価の基準と方法:以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする

| テスト:　100　% | レポート:　　% | 発表:　　% | 実技試験:　　% | その他:　　% |
|---|---|---|---|---|

特記事項:
【高畠】出席をとります。テストで評価します。
【長森】出席をとります。テストで評価します。
【吉本】出席をとります。テストで評価します。

アクティブラーニング要素:
課題解決型学習　　ディスカッション、ディベート　　グループワーク　　プレゼンテーション　　実習、フィールドワーク

ﾃｽﾄ・ﾚﾎﾟｰﾄ・発表・実技試験等の実施時期:
講義とは別にテストを行います(長森)。講義とは別にテストを行います(吉本)。講義とは別にテストを行います(高畠)。
8回の授業終了後、後日3名の講師の試験を同日に行います。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法:【吉本】試験の範囲を授業で確認し試験の解答は後日提示します。
【長森】試験の解答と一緒に講評を文章にして後日配布します。【高畠】試験の解答を後日提示します。

| 授　業　計　画 | 準備学習(予習・復習等) 学習内容 | 学習に必要な時間(分) |
|---|---|---|
| ①【長森】小児のよく見られる疾患、呼吸器、アレルギー、感染症 | 【復習】講義の内容を復習する | 180分 |
| ②【長森】小児のよく見られる疾患　神経疾患、皮膚疾患、小児救急 | | 180分 |
| ③【長森】小児の慢性疾患、障害児 | | 180分 |
| ④【高畠】小児の成長と発達、その評価法、栄養と小児保健、予防接種、新生児、先天異常、マススクリーニング、先天性心疾患 | 【復習】講義の内容を復習する | 180分 |
| ⑤【吉本】妊娠期の異常 | 【予習】講義内容箇所のテキストを読む<br>【復習】講義内容を講義ノートで復習する | 180分 |
| ⑥【吉本】分娩期の異常 | | 180分 |
| ⑦【吉本】産褥期・新生児の異常 | | 180分 |
| ⑧【吉本】婦人科疾患と治療 | | 180分 |

| 使用テキスト: | その他参考文献など: |
|---|---|
| ①森恵美 系統看護学講座;専門分野　母性看護学各論　母性看護学[2]　医学書院<br>ISBN978-4-260-06197-1(吉本)<br>② ナーシング・グラフィカEX 疾病と看護 [9] 女性生殖器 第2版　メディカ出版<br>ISBN-10 : 4-8404-8780-4<br>ISBN-13 : 978-4-8404-8780-1 (吉本)<br>③ナースの小児科学 中外医学社 ISBNISBN978-4-498-17510-5 (高畠、長森)<br>④系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児臨床看護各論 小児看護学[2] 医学書院 ISBN978-4-260-05685-4 (高畠、長森) | 「新生児蘇生法テキスト」<br>「病院前救護のための産科救急トレーニング」 |

受講上の留意点(担当者からのメッセージ):受胎に始まり、成長と発達を重ね思春期に至る小児の身体・精神的特長を理解して欲しい。個々の疾患の治療のみならず、成長と精神発達を加味した包括的医療があることを理解して欲しい。肉体的・精神的弱者としての小児の特異性を、社会医学的観点から理解し、患児や家族にいたわりの気持ちを持って接することができる医療人になって欲しい。

看護学科

| 科目名: 精神疾病治療管理論 | | | | | 担当教員 氏名: 田仲 耕大、田邊 裕 |
|---|---|---|---|---|---|
| 単 位 | 開講時期(年次・期) | | 科目の区分 | 授業方法 | (卒業要件)<br>必修／選択 | 備考 |
| 1 | 2年次 | 前期 | 専門基礎科目 | 講義 | 必修 | |
| 実務経験を用いてどのような授業を行っているか: | 【田仲】まずは興味を持っていただけるような、そして将来、臨床現場で役に立つような授業内容を心掛けています。<br>【田邊】患者と家族に寄り添うための自己理解とかかわりの技法 | | | | |

| 授業科目の学習教育目標の概要: | キーワード |
|---|---|
| 精神疾患治療管理論では精神障害の症状、分類、診断、治療およびリハビリテー ションなどに関する臨床医学の主要専門領域である精神医学について、看護に必 要とされる基礎知識を習得する。また、家族援助の実際と留意点を臨床心理士の かかわりを通して心理学的観点から学ぶ。 | 精神障害の症状, 分類, 診断, 治療,<br>リハビリテー ション, 家族支援 |

授業における学修の到達目標

| 学習教育目標<br>(卒業認定・学位授与の方針との関連) | 自己形成を進める行動目標<br>(福短マトリックスで示される番号) 1．2．3．5．6．8．10 |
|---|---|
| A 知識・理解力 | ①精神疾患を成因的に分類できる<br>②主要な精神疾患の概要を述べることができる<br>③精神科治療に関わる治療法の特徴と各障害への適応を知る |
| B 専門的技術 | ④家族援助の必要性を理解する |
| D 問題解決力 | ⑤家族アセスメントの方法を理解する |
| H コミュニケーション力 | ⑥かかわり方の留意点を理解する |
| | |

成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする

| テスト: 50 % | レポート: 50 % | 発表: % | 実技試験: % | その他: % |
|---|---|---|---|---|

特記事項:
【田仲】特になし。【田邊】レポートのテーマや提出日などは講義内で提示する。

アクティブラーニング要素:
課題解決型学修　ディスカッション、ディベート　グループワーク　プレゼンテーション　実習、フィールドワーク

ﾃｽﾄ・ﾚﾎﾟｰﾄ・発表・実技試験等の実施時期:
【田仲】毎回の授業の終了時にリアクションペーパーを記述する。全授業終了後に試験を実施し、知識と理解の定着度を評価する。
【田邊】講義で印象に残ったことに感想を入れて、レポートにまとめる。レポートはA41ページ。書式は自由。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法:
【田仲】試験実施後に答案を模範解答・解説と一緒に返却する。
【田邊】レポートにコメントをつけて返却する。

| 授 業 計 画 | 準備学習(予習・復習等) | |
|---|---|---|
| | 学習内容 | 学習に必要な時間(分) |
| ①【田仲】 序論 、精神症状学など | 【予習】疾患と治療について考える | 60分 |
| ②【田仲】 神経発達症、統合失調症など | 【復習】配布資料の確認と復習 | 60分 |
| ③【田仲】 気分障害、薬物療法、精神療法など | 【復習】配布資料の確認と復習 | 60分 |
| ④【田仲】 神経症性障害, 摂食障害など | 【復習】配布資料の確認と復習 | 60分 |
| ⑤【田仲】 物質関連障害、器質性精神障害など | 【復習】配布資料の確認と復習 | 60分 |
| ⑥【田仲】 せん妄、パーソナリティ障害など | 【予習・復習】まとめ | 60分 |
| ⑦【田邊】 自己理解と感情のセルフケア | 【復習】講義内容の整理 | 【復習】120分 |
| ⑧【田邊】 患者と家族のアセスメント・かかわり方の基本 | 【復習】講義に関するレポート作成 | 【復習】120分 |

使用テキスト:
【田仲】精神看護学(1):情緒発達と精神看護の基本(ナーシング グラフィカ)、
精神看護学(2):精神障害と看護の実践(ナーシン ググラフィカ)
【田邊】 不要

その他参考文献など:
・家族が知りたい統合失調症への対応Q＆A 高森信子著 (日本評論社)
・看護のための精神医学 中井久夫／山口直彦 著(医学書 院)

受講上の留意点(担当者からのメッセージ):
精神看護学援助論の履修に必要な知識を学習するので, しっかり取り組んでください。
患者や家族に対し現在の援助はチームを組んで行うのが一般的です。
他の職種が援助でどの部分を支え、どんなかかわり方をするのかを知ってください。

看護学科

| 科目名: 放射線治療管理論 | | | 担当教員 氏名: 北川 俊明 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 単 位 | 開講時期(年次・期) | 科目の区分 | 授業方法 | (卒業要件)<br>必修／選択 | 備考 |
| 1 | 2年次 前期 | 専門基礎科目 | 講義 | 必修 | |
| 実務経験を用いてどのような授業を行っているか: | X線CT・CT－A MRI・MRA 血管撮影・血管内手術など症例を示し、手技及び読影において重要事項を説明 | | | | |

| 授業科目の学習教育目標の概要: | キーワード |
|---|---|
| 進歩の著しい臨床放射線医学(放射線腫瘍学、放射線診断学、核医学)の概要を理解する。 | 放射線診断、放射線治療、<br>放射線防護<br>CT MRI 核医学<br>PET IVR |

授業における学修の到達目標

| 学習教育目標<br>(卒業認定・学位授与の方針との関連) | 自己形成を進める行動目標<br>(福短マトリックスで示される番号) 1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10 |
|---|---|
| A 知識・理解力 | ・放射線治療の対象疾患、治療方法、治療に伴う合併症について理解する。<br>・放射線診断学特にCT, MRI, PETの特徴と臨床における役割を理解する。 |
| C 論理的思考力 | ・放射線治療や放射線診断における看護師の役割について理解する。 |
| | |
| | |
| | |

成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする

| テスト: 90 % | レポート: % | 発表: % | 実技試験: % | その他: 10 % |
|---|---|---|---|---|

特記事項:
出席状況・出席態度も評価する。全体の得点が60点未満の場合はReport提出を課す。

アクティブラーニング要素:
課題解決型学修 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク

ﾃｽﾄ・ﾚﾎﾟｰﾄ・発表・実技試験等の実施時期: 別に定めた日時にテストを1回行う。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: テストについて解説する。

| 授 業 計 画 | 準備学習(予習・復習等) 学習内容 | 学習に必要な時間(分) |
|---|---|---|
| ①放射線医学の基礎的事項・放射線防護について | 【予習】教科書を読む<br>【復習】プリントの復習 | 【予習】90分<br>【復習】90分 |
| ②CTについて | 【予習】教科書を読む<br>【復習】プリントの復習 | 【予習】90分<br>【復習】90分 |
| ③MRIについて | 【予習】教科書を読む<br>【復習】プリントの復習 | 【予習】90分<br>【復習】90分 |
| ④核医学、PETについて | 【予習】教科書を読む<br>【復習】プリントの復習 | 【予習】90分<br>【復習】90分 |
| ⑤超音波診断、IVRその他＋「放射線診断学・放射線防護」のまとめ | 【予習】教科書を読む<br>【復習】プリントの復習 | 【予習】90分<br>【復習】90分 |
| ⑥放射線治療学総論 | 【予習】教科書を読む<br>【復習】プリントの復習 | 【予習】90分<br>【復習】90分 |
| ⑦放射線治療学総論 | 【予習】教科書を読む<br>【復習】プリントの復習 | 【予習】90分<br>【復習】90分 |
| ⑧全体のまとめ | 【予習】教科書を読む<br>【復習】プリントの復習 | 【予習】90分<br>【復習】90分 |

| 使用テキスト: 系統看護学講座別巻7 臨床放射線医学 (医学書院)<br>ISBN 978－4－260－02178－4 | その他参考文献など: |
|---|---|

受講上の留意点(担当者からのメッセージ):

看護学科

| 科目名: 解剖生理学特論 | | | | | 担当教員 氏名: 泉 朱子 |
|---|---|---|---|---|---|
| 単 位 | 開講時期(年次・期) | | 科目の区分 | 授業方法 | (卒業要件)<br>必修／選択 | 備考 |
| 1 | 2年次 | 前期 | 専門基礎科目 | 講義 | 必修 | |
| 実務経験を用いてどのような授業を行っているか: | 臨床における看護実践の経験を有する講師が治療やケアを考えるうえで根拠となる基礎知識を生活援助の視点から系統的に学ぶ支援をする | | | | |

| 授業科目の学習教育目標の概要: | キーワード |
|---|---|
| 1年次で修得した解剖生理学の知識を基盤として、人の形態と機能を生活行動の視点から統合的に理解することを目的とする。人体の構造と機能が健康の保持・増進および疾病時の生活にどのように関与しているかを理解し、看護実践におけるアセスメントおよび援助の科学的根拠を説明できる基礎的能力を養う。 | 人体の構造と機能、形態機能学、生活行動、看護援助、フィジカルアセスメント |

授業における学修の到達目標

| 学習教育目標<br>(卒業認定・学位授与の方針との関連) | 自己形成を進める行動目標<br>(福短マトリックスで示される番号) 1．2．6．9． |
|---|---|
| A 知識・理解力 | 人体の構造と機能を生活行動の視点で体系的に理解する |
| C 論理的思考力 | 解剖生理学的知識を基に、看護援助の根拠を論理的に考察する |
| H コミュニケーション力 | 専門的知識を適切に整理し、他者に伝える |
| | |
| | |

成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする

| テスト: 60 % | レポート: % | 発表: 20 % | 実技試験: % | その他: 20 % |
|---|---|---|---|---|

特記事項:

アクティブラーニング要素:
課題解決型学習　ディスカッション、ディベート　グループワーク　(プレゼンテーション)　実習、フィールドワーク

ﾃｽﾄ・ﾚﾎﾟｰﾄ・発表・実技試験等の実施時期:8回目の講義の中で試験を行う

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法:

| 授 業 計 画 | 準備学習(予習・復習等) 学習内容 | 学習に必要な時間(分) |
|---|---|---|
| ①呼吸・循環に関わる形態機能と看護援助の根拠 | フィジカルアセスメントと解剖生理の知識のつながりを理解する | 予習60分<br>復習120分 |
| ②フィジカルアセスメントと解剖生理の関連(グループ発表) | フィジカルアセスメントと解剖生理の知識のつながりをグループごとにプレゼンする | 予習120分<br>復習60分 |
| ③恒常性維持機構とバイタルサインの意味 | ホメオスタシスとバイタルサインのつながりを理解する | 予習120分<br>復習60分 |
| ④消化・吸収・代謝機能と栄養アセスメント | 食事にかかわる人体の機能について理解する | 予習120分<br>復習60分 |
| ⑤食事援助の根拠と看護実践 | 栄養代謝のアセスメント・食事援助の根拠をプレゼンする | 予習120分<br>復習60分 |
| ⑥排尿・排便機能とアセスメント | 排泄にかかわる人体の機能について理解する | 予習120分<br>復習60分 |
| ⑦排泄援助の根拠をプレゼンテーション | 排泄のアセスメントと排泄援助の根拠をプレゼンする | 予習120分<br>復習60分 |
| ⑧解剖生理学と日常生活行動(まとめ) | 看護援助と日常生活動作のまとめ | 予習120分<br>復習60分 |
| ⑨ | | |
| ⑩ | | |
| ⑪ | | |
| ⑫ | | |
| ⑬ | | |
| ⑭ | | |
| ⑮ | | |

| 使用テキスト:1年次に使用した解剖生理学・基礎看護技術Ⅰ・Ⅱのテキスト | その他参考文献など:ISBN978-4-8392-3377-8C3347<br>新体系看護学全書 人体の構造と機能③形態機能学 メジカルフレンド社<br>ISBN978-4-7965-2604-3C3047 看護につなぐ人体の構造と機能 照林社 |
|---|---|

受講上の留意点(担当者からのメッセージ):

看護学科

| 科目名: 公衆衛生学 | | | | | 担当教員 氏名: 小倉 憲一、櫻田 惣太郎 |
|---|---|---|---|---|---|
| 単 位 | 開講時期(年次・期) | 科目の区分 | 授業方法 | (卒業要件)<br>必修／選択 | 備考 |
| 1 | 2年次 前期 | 専門基礎科目 | 講義 | 必修 | |
| 実務経験を用いてどのような授業を行っているか: | 公衆衛生医師としての実務経験を活かし、保健と福祉について教授する。 | | | | |

| 授業科目の学習教育目標の概要: | キーワード |
|---|---|
| 地域保健・医療問題解決のために必要な公衆衛生学の基礎知識に重点を置き、疾病予防、疫学、行政施策、および国際的取り組みについて学ぶ。地球規模の環境問題と公衆衛生の今後の課題を考える。 | 公衆衛生、疫学、地域保健、予防、福祉 |

授業における学修の到達目標

| 学習教育目標<br>(卒業認定・学位授与の方針との関連) | 自己形成を進める行動目標<br>(福短マトリックスで示される番号) 1. 2. 5. 6. 9. |
|---|---|
| A 知識・理解力 | 看護に活用される公衆衛生学の基礎知識を理解する |
| B 専門的技術 | 専門的看護技術を習得するために、公衆衛生の考え方と行政施策を理解する |
| C 論理的思考力 | 公衆衛生と疫学を理解し、看護の理論や技術を論理的に説明できる能力を養う |
| F チームワーク・リーダーシップ | 地域保健・地域医療の一員である看護師の役割を理解する |
| G 倫理観 | 地域で生活する人々の健康や生命の尊厳を理解し、医療・福祉に携わるものとしての倫理観を身につける |

成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする

| テスト: 60 % | レポート: 20 % | 発表: % | 実技試験: % | その他: 20 % |
|---|---|---|---|---|

特記事項:公衆衛生の歴史をたどり、我が国の健康指標の改善や今後の課題を自ら考え、課題解決に必要な考え方・知識、技術、ネットワークのあり方を考察する。

アクティブラーニング要素:
(課題解決型学習) ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク

テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期:小テストを兼ねたアンケートを行うことがある。6回目の講義時にレポートを実施する。「補講・試験」日に成績評価試験を実施する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法:アンケートの結果は、次の講義で取り上げる。

| 授 業 計 画 | 準備学習(予習・復習等) 学習内容 | 学習に必要な時間(分) |
|---|---|---|
| 【小倉】①公衆衛生の歴史 | テキスト「公衆衛生の歴史」を読む | 【予習】120分<br>【復習】150分 |
| 【小倉】②公衆衛生のシステム | テキスト「現在の公衆衛生システムと政策」を読む | 【予習】120分<br>【復習】150分 |
| 【櫻田】③公衆衛生の政策 | テキスト「諸外国の公衆衛生政策」を読む | 【予習】120分<br>【復習】150分 |
| 【櫻田】④公衆衛生の公的責任 | テキスト「公衆衛生の理念・概念」を読む | 【予習】120分<br>【復習】150分 |
| 【櫻田】⑤公衆衛生の方法 | テキスト「公衆衛生のものさし」を読む | 【予習】120分<br>【復習】150分 |
| 【櫻田】⑥疫学調査の実際 | テキスト「公衆衛生活動における疫学」を読み、事例を学ぶ | 【予習】120分<br>【復習】150分 |
| 【小倉】⑦公衆衛生のアプローチ | テキスト「公衆衛生活動のプロセス」を読む | 【予習】120分<br>【復習】150分 |
| 【小倉】⑧まとめ | 公衆衛生学授業全体の復習をする | 【予習】120分<br>【復習】150分 |

| 使用テキスト: | その他参考文献など: |
|---|---|
| 『公衆衛生が見える2026-2027 第7版』(医療情報科学研究所)メディック・メディア ISBN978-4-89632-965-0 | 近藤克則著「健康格差社会への処方箋」医学書院 |

受講上の留意点(担当者からのメッセージ):新型コロナウイルス感染症は、公衆衛生や疫学調査の重要さを改めて世に問うている。公衆生は国家試験の必須科目であるので、今後も出題が増えると予想される。しっかりと学修してほしい。この講義は、予習よりも復習を重要視してほしい。

看護学科

| 科目名: 国際・災害看護活動論 | | | 担当教員 氏名: 大橋達子 高橋絹代 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 単 位 | 開講時期(年次・期) | | 科目の区分 | 授業方法 | (卒業要件)必修／選択 | 備考 |
| 1 | 2年次 | 前期 | 専門科目 | 講義 | 必修 | |
| 実務経験を用いてどのような授業を行っているか: | | | | | | |

| 授業科目の学習教育目標の概要: | キーワード |
|---|---|
| 1. 災害看護について理解する<br>2.看護師として災害支援、国試支援の役割とあり方について考えることができる | 国際機構、ミレニアム開発目標、ヘルスプロモーション、国際協力、国際支援、ICS(インシデントコマンドシステム)、災害時のマネージメント |

授業における学修の到達目標

| 学習教育目標<br>(卒業認定・学位授与の方針との関連) | 自己形成を進める行動目標<br>(福短マトリックスで示される番号) 1. 2. 5. 8. |
|---|---|
| A 知識・理解力 | 世界で起きている問題について、その背景や影響などを踏まえた理解をすることができる |
| D 問題解決力 | 困難な状況下において発生する問題に看護師という専門職の立場で対処について考える |
| F チームワーク・リーダーシップ | 世界で起こっている災害、貧困、紛争への関心を深め、必要な援助について考えることができる |
| G 倫理観 | グローバルな視点で物事を捉えることができる |
| | |

成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする

| テスト: 60 % | レポート: 20 % | 発表: % | 実技試験: % | その他: 20 % |
|---|---|---|---|---|

特記事項:
国際ライセンスICS(インシデントコマンドシステム)の取得を目指す

アクティブラーニング要素:
課題解決型学習 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク

ﾃｽﾄ・ﾚﾎﾟｰﾄ・発表・実技試験等の実施時期:講義でレポート課題について説明と提示を行う

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法:レポート及び学習発表にコメントを行う

| 授 業 計 画 | 準備学習(予習・復習等) 学習内容 | 学習に必要な時間(分) |
|---|---|---|
| ①②【大橋・高橋】国際・災害看護挿入 課外授業【四季防災館】 | 予習:テキスト第4章Aを読む<br>復習 本日のまとめを行う | 予習:60分<br>復習:60分 |
| ③【高橋】国際看護:グローバルヘルス | 予習:テキスト第4章Bを読む<br>復習 本日のまとめを行う | 予習:60分<br>復習:60分 |
| ④【高橋】開発協力と看護 国際救護と看護 | 予習:テキスト第4章Cを読む<br>復習 本日のまとめを行う | 予習:60分<br>復習:61分 |
| ④【高橋】国際協力の仕組み ゲストスピーカーJICAより | 予習:テキスト第4章Gを読む<br>復習 本日のまとめを行う | 予習:60分<br>復習:62分 |
| ⑥【大橋】災害看護学 | 予習:テキスト第3章を読む<br>復習 本日のまとめを行う | 予習:60分<br>復習:63分 |
| ⑦【大橋】災害時に必要な医療、看護 | 予習:テキスト第2.3章を読む<br>復習 本日のまとめを行う | 予習:60分<br>復習:64分 |
| ⑧【大橋】災害看護の実際 | 予習:テキスト第2.3章を読む<br>復習 本日のまとめを行う | 予習:60分<br>復習:65分 |
| ⑨～⑫【大橋・高橋】ICS(インシデントコマンドシステム100)講義 試験 | 予習:事前配布テキストを読む<br>復習 本日のまとめを行う | 予習:60分<br>復習:66分 |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 使用テキスト:災害看護・国際看護 看護の実践と統合(医学書院)<br>ISBN978-4-280-03570-5 | その他参考文献など:ICS資料 |
|---|---|

受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 世界で起きている紛争、貧困、災害の実際を知り、看護について考える。世界にある様々な文化は生命、健康に大きく影響をしており、諸外国の事情を知る。

看護学科

| 科目名： ケアマネジメント論 | | | | | 担当教員 氏名： 今川 孝枝、炭谷 英信 |
|---|---|---|---|---|---|
| 単 位 | 開講時期（年次・期） | | 科目の区分 | 授業方法 | （卒業要件）必修／選択 | 備考 |
| 1 | 2年次 | 前期 | 専門科目 | 演習 | 必修 | |

| 実務経験を用いてどのような授業を行っているか： | 病院や施設（居宅介護、地域包括支援センター）等の実務経験を活かして、地域と在宅で暮らす人々の理解、ケアマネジメントの方法について教授する |
|---|---|

| 授業科目の学習教育目標の概要： | キーワード |
|---|---|
| 地域で暮らす療養者（児）・家族を対象とした看護を展開できるようになるために、在宅療養者とその家族に対する在宅ケアの実際と地域の特徴を捉えた展開方法を知り、そのケアシステムにおいて活動する看護職および介護支援専門員等の役割を学ぶ。また、様々な障害をもつ人々が地域で暮らし続けるための仕組みとその仕組みづくりの方法や過程について学ぶ | 地域包括ケア、ケアマネジメント、社会資源、介護支援専門員、多職種連携 |

授業における学修の到達目標

| 学習教育目標（卒業認定・学位授与の方針との関連） | 自己形成を進める行動目標（福短マトリックスで示される番号） 2．5．6．7．8．9、10 |
|---|---|
| A 知識・理解力 | 地域・在宅看護におけるケアマネジメントについて理解できる |
| B 専門的技術 | 多様な場における地域・在宅看護ケアマネジメントを理解できる |
| C 論理的思考力 | グループワーク、討論を行うことをとおして論理的思考力、問題解決力、チームワーク、コミュニケーションを養う |
| F チームワーク・リーダーシップ | |
| H コミュニケーション力 | |

成績評価の方法・基準： 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする

| テスト： 50 % | レポート： 20 % | 発表： 20 % | 実技試験： % | その他： 10 % |
|---|---|---|---|---|

特記事項：本科目はアクティブ・ラーニングの一環としてグループワークを行うことにより地域・在宅で療養している人々を支援するための仕組みについて理解を深め、看護師としての役割、介護支援専門員の役割、多職種連携を学ぶことを狙いとしています。その他10%は取り組み具合を評価します。

アクティブラーニング要素：
課題解決型学習　ディスカッション、ディベート　グループワーク　プレゼンテーション　実習、フィールドワーク

テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期：中間にテストを行います。発表は特別連携授業で行います。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法：レポート等は後日返却します。

| 授 業 計 画 | 準備学習（予習・復習等） 学習内容 | 学習に必要な時間（分） |
|---|---|---|
| ①【今川】 ガイダンス、地域包括ケアとケアマネジメント | 【予習】テキスト1，第6章1熟読<br>【復習】授業の振り返り | 【予習】60分<br>【復習】60分 |
| ②【今川】 介護保険制度におけるケアマネジメント | 【予習】テキスト1第6章、テキスト3熟読<br>【復習】授業の振り返り | 【予習】60分【復習】60分 |
| ③【炭谷】 継続看護 退院支援看護 | 【予習】テキスト1第3章4、第6章熟読<br>【復習】授業の振り返り | 【予習】60分【復習】60分 |
| ④【炭谷】 在宅看護の時期別の介入、多職種連携 | 【予習】テキスト1第3章4,5、第6章5熟読<br>【復習】授業の振り返り | 【予習】60分【復習】60分 |
| ⑤【炭谷】 在宅療養導入の事例展開（脳卒中） | 【予習】テキスト2第7章4、11熟読<br>【復習】授業の振り返り | 【予習】60分【復習】60分 |
| ⑥【炭谷】 在宅療養導入の事例展開（がん） | 【予習】テキスト2第7章5、12熟読<br>【復習】授業の振り返り | 【予習】60分【復習】60分 |
| ⑦【炭谷】 在宅療養導入の事例展開（小児） | 【予習】テキスト2第7章9、13熟読<br>【復習】授業の振り返り | 【予習】60分【復習】60分 |
| ⑧【炭谷】 在宅療養導入の事例展開（認知症） | 【予習】テキスト2第7章2、3熟読<br>【復習】授業の振り返り | 【予習】60分【復習】60分 |
| ⑨【今川】在宅でのケアマネジメント 事例展開 | 【予習】事例について学習<br>【復習】課題 | 【予習】60分【復習】60分 |
| ⑩【今川】在宅でのケアマネジメント 事例展開 | 【予習】課題遂行<br>【復習】課題 | 【予習】60分【復習】60分 |
| ⑪【今川】在宅でのケアマネジメント 事例展開 | 【予習】課題遂行<br>【復習】課題 | 【予習】60分【復習】60分 |
| ⑫【今川】在宅でのケアマネジメント 事例展開 多職種連携（特別連携授業） | 【予習】事前に説明<br>【復習】課題シート記載 | 【予習】60分【復習】60分 |
| ⑬【今川】在宅でのケアマネジメント 事例展開 多職種連携（特別連携授業） | | 【予習】60分【復習】60分 |
| ⑭【今川】難病支援について（特別講師） | 【予習】難病支援について学習<br>【復習】授業の振り返り | 【予習】60分【復習】60分 |
| ⑮【今川】ケアマネジメント まとめ | 【予習】事例課題シート記載<br>【復習】課題 | 【予習】60分【復習】60分 |

使用テキスト：
1．ナーシンググラフィカ地域・在宅看護論① メディカ出版 ISBN978-4-8404-7543-3
2．ナーシンググラフィカ地域・在宅看護論② メディカ出版 ISBN978-4-8404-7544-0
3．みんないきいき介護保険 社会保険出版社 コード89435

その他参考文献など：

受講上の留意点（担当者からのメッセージ）：日頃からメディア・新聞・地域等の情報に関心を持ちましょう。

看護学科

| 科目名: 精神看護学援助Ⅰ | | | | 担当教員 氏名: 坂東 紀代美　横道 博子 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 単　位 | 開講時期(年次・期) | | 科目の区分 | 授業方法 | (卒業要件)<br>必修／選択 | 備考 |
| 1 | 2年次 | 前期 | 専門科目 | 講義 | 必修 | |
| 実務経験を用いてどのような授業を行っているか: | 精神病院での経験や精神看護教育の経験を活かし、地域での生活を視座した精神障がい者への支援について講義する | | | | | |

| 授業科目の学習教育目標の概要: | キーワード |
|---|---|
| 社会におけるこころの健康を理解し、精神疾患や障がいが及ぼす生活障がい(生きづらさ)を理解する。早期退院・地域での生活を視座に当事者なりのウェルビーイングに必要な資源活用など精神障がい者への援助の基礎を修得する。 | こころの健康　ストレス<br>地域定着支援<br>障害者総合支援法<br>強制入院　行動制限と人権擁護<br>治療的関係 |

授業における学修の到達目標

| 学習教育目標<br>(卒業認定・学位授与の方針との関連) | 自己形成を進める行動目標<br>(福祉マトリックスで示される番号) 1．5．6．8．9．10 |
|---|---|
| A 知識・理解力 | 精神障がい者の生きづらさについて、精神症状や精神運動性興奮などの知識を活用できる。精神医療の変遷から精神障がい者への偏見を学修し適切な援助を考える。 |
| B 専門的技術 | 精神科疾患からの影響や各人に適した社会資源、社会復帰について学修し、知識を活用できる。 |
| C 論理的思考力 | 精神の障害が、家族関係や社会生活上にもたらす影響について考えることができ、個別の看護計画に反映させることができる。 |
| D 問題解決力 | 当事者に必要な具体的援助や支援を実践できる。精神科リハビリを理解し、関係する人や社会資源の活用を考えることができる。 |
| G 倫理観 | 精神科疾患や精神科病院への偏見を理解し、当事者への人権的配慮ができる。疾患からの行動を理解して対応できる。 |
| H コミュニケーション力 | ・研究における倫理的配慮について述べることができる。 |

成績評価の方法・基準:　以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする

| テスト: 50 % | レポート: 30 % | 発表: 10 % | 実技試験: % | その他: 10 % |
|---|---|---|---|---|

特記事項:出席状況、授業態度、定期試験の結果などを総合的に評価する。グループ討議と発表を行う。

アクティブラーニング要素:
課題解決型学習　ディスカッション、ディベート　グループワーク　プレゼンテーション　実習、フィールドワーク

テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期:次回講義までレポー記入し提出

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法:提出レポートにコメントを記載し返却

| 授　業　計　画 | 準備学習(予習・復習等) | |
|---|---|---|
| | 学習内容 | 学習に必要な時間(分) |
| ①歴史と法制度の変遷 | 【予習】精神科疾患と症状について熟読<br>【復習】グループワーク準備 | 【予習】120分【復習】120分 |
| ②ストレスと対処・防御機制　ライフサイクルとメンタルヘルス | 【予習】グループワーク準備<br>【復習】発表準備 | 【予習】120分【復習】120分 |
| ③現代社会とこころの問題　自殺・ひきこもりの現状と支援活動　家族の課題 | 【予習】発表準備<br>【復習】発表内容修正後提出 | 【予習】120分【復習】120分 |
| ④精神障がい者の医療の動向　依存症　薬物療法　行動制限と倫理　グループ演習 | 【予習】記録内容の予習をする<br>【復習】事例を基に記録する | 【予習】120分【復習】120分 |
| ⑤発表 | 【予習】記録を進める<br>【復習】記録提出 | 【予習】120分【復習】120分 |
| ⑥発表 | 【予習】資料熟読<br>【復習】演習ついてレポート提出 | 【予習】120分【復習】120分 |
| ⑦精神障がい者の医療の動向、精神保健福祉政策の現状、精神障がい者の援助方法 | 【予習】記録を進める<br>【復習】記録 | 【予習】120分【復習】120分 |
| ⑧障がい者総合支援法、精神障がい者の地域移行のための支援 | 【予習】記録を進める<br>【復習】記録提出 | 【予習】120分【復習】120分 |

| 使用テキスト: | その他参考文献 |
|---|---|
| ・精神看護学(1):情緒発達と精神看護の基本 (ナーシンググラフィカ)ISBN978-8404-7541-9　C3347<br>・精神看護学(2):精神障害と看護の実践 (ナーシンググラフィカ)ISBN978-4-8404-7542-6　C3347<br>・自己理解・対象理解を深める　プロセスレコード　第3版(日総研)ISBN978-4-7760-1913-8　C3047 | 看護のための精神医学　第2版　中井久夫　医学書院<br>ISBN978-4-260-33325-2C3047 |

看護学科

| 科目名: 成人看護学援助論Ⅰ | | | 担当教員 氏名: 中田智子 大橋達子 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 単 位 | 開講時期(年次・期) | | 科目の区分 | 授業方法 | (卒業要件)<br>必修／選択 | 備考 |
| 2 | 2年次 | 前期 | 専門科目 | 講義 | 必修 | |
| 実務経験を用いてどのような授業を行っているか: | 看護師の実務経験を活かして、看護の場や対象の理解と現状について教授する。 | | | | | |

| 授業科目の学習教育目標の概要: | キーワード |
|---|---|
| 成人期は、社会的役割を担い、自立･自律し、基本的にはセルフマネジメント、意思決定ができる存在です。そのような人の急な病気・外傷・手術に伴う人間の心理的ストレスや生体侵襲などによる心身反応を理解し、個人の尊厳に配慮しながら根拠に基づいた看護を提供できる知識・技術・態度の育成を目指す。 | 手術侵襲・生体反応<br>術後合併症<br>周術期の看護<br>健康危機状況<br>クリティカルケア |

授業における学修の到達目標

| 学習教育目標<br>(卒業認定・学位授与の方針との関連) | 自己形成を進める行動目標<br>(福短マトリックスで示される番号) 2．4．5．7．8 |
|---|---|
| A 知識・理解力 | 知識を体系的に理解するとともに、学んだ知識をつないでいくことができる |
| C 論理的思考力 | さまざまな知識･技術を統合し活用するために論理的に考え、看護を探求する |
| E 自己管理力 | 自らを律して、困難にも諦めない、逃げない、自分勝手な解釈をし、他者批判をしない |
| G 倫理観 | 他者が、自分が尊重され、配慮されたと認識できるような行動をする |
| | |

成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする

| テスト: 90 % | レポート: % | 発表: % | 実技試験: % | その他: 10 % |
|---|---|---|---|---|

特記事項:

アクティブラーニング要素:
課題解決型学習 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク

ﾃｽﾄ・ﾚﾎﾟｰﾄ・発表・実技試験等の実施時期:授業の4回目終了時に小テストを実施する。すべての授業終了後に筆記試験を実施する。課題は授業開始時に提示する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法:授業の中で適宜解説をする。

| 授 業 計 画 | 準備学習(予習・復習等) 学習内容 | 学習に必要な時間(分) |
|---|---|---|
| ①【大橋】周術期における基礎知識 | 【予習】テキスト1の第1部1，2を読む<br>【復習】テキスト講義資料をもとに復習 | 【予習】120分<br>【復習】120分 |
| ②【大橋】外科的侵襲から回復期の生体反応 | | |
| ③【大橋】術後合併症予防と発症時の援助 | 【予習】テキスト1の第2部-6を読む<br>【復習】テキスト講義資料をもとに復習 | 【予習】120分<br>【復習】120分 |
| ④【大橋】健康危機状況にある人の看護 | 【予習】テキス2の第1部-1を読む<br>【復習】テキスト講義資料をもとに復習 | |
| ⑤【中田】呼吸器系に障害のある人の手術 | 【予習】テキスト1の第3部ー9を読む<br>【復習】テキスト講義資料をもとに復習 | 【予習】120分<br>【復習】120分 |
| ⑥【中田】循環器系に障害のある人の手術 | 【予習】テキスト1の第3部ー10を読む<br>【復習】テキスト講義資料をもとに復習 | |
| ⑦【中田】消化代謝系(食道がん)・泌尿器系に障害のある人の手術 | 【予習】テキスト1の第33部ー11を読む<br>【復習】テキスト講義資料をもとに復習 | 【予習】120分<br>【復習】120分 |
| ⑧【中田】消化代謝系(胃がん・腹腔鏡手術)に障害のある人の手術 | | |
| ⑨【中田】消化代謝系に障害のある人の手術(膵胆肝) | | 【予習】120分<br>【復習】120分 |
| ⑩【中田】脳神経系に障害のある人の手術 | 【予習】テキスト1の第3部ー13を読む<br>【復習】テキスト講義資料をもとに復習 | |
| ⑪【大橋】消化代謝系に障害のある人の手術(大腸がん・ストーマ増設) | 【予習】テキスト1の第3部ー11を読む<br>【復習】テキスト講義資料をもとに復習 | 【予習】120分<br>【復習】120分 |
| ⑫【大橋】性・生殖器系に障害のある人の手術(乳がん・子宮がん)・感覚器系に障害のある人の手術 | 【予習】テキスト1の第3部ー17、14を読む<br>【復習】テキスト講義資料をもとに復習 | |
| ⑬【大橋】運動器系に障害のある人の手術 | 【予習】テキスト1の第3部ー15を読む<br>【復習】テキスト講義資料をもとに復習 | 【予習】120分<br>【復習】120分 |
| ⑭【特別講義】クリティカルケア看護の基本概念 | 【予習】テキスト2第1部-2,3のを読む<br>【復習】テキスト講義資料をもとに復習 | |
| ⑮【特別講義】クリティカルな状態にある人の特徴と理解、援助 | | 【予習】60分<br>【復習】60分 |

| 使用テキスト:1. 成人看護学④周術期看護、ISBN978-4-8404-7539-6 メディカ出版.<br>2. 成人看護学②健康危機状況/セルフケアの再獲得、ISBN978-4-8404-7538-9メディカ出版、,3. 看護診断ハンドブック第12 版, ISBN978-4-260-05021-0 医学書院 | その他参考文献など:竹内登美子:周手術期看護1～5, 医歯薬出版株式会社、本庄恵子監修:写真でわかる臨床看護技術②, インターメディカ、雄西智恵美、秋元典子:成人看護学 周術期看護論第3版、ヌーベルヒロカワ |
|---|---|

受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 予習復習を必ず行いましょう。

看護学科

| 科目名: 成人看護学援助論Ⅲ | | | | | 担当教員 氏名: 小倉 之子、岩城 直子 |
|---|---|---|---|---|---|
| 単 位 | 開講時期(年次・期) | | 科目の区分 | 授業方法 | (卒業要件)必修／選択 | 備考 |
| 2 | 2年次 | 前期 | 専門科目 | 演習 | 必修 | |
| 実務経験を用いてどのような授業を行っているか: | 授業内において実務経験をふまえた体験談、実際がイメージできる映像・画像を用いながら具体的に示すことで学生の学習理解に繋げる | | | | |

| 授業科目の学習教育目標の概要: | キーワード |
|---|---|
| 慢性疾患とともに生活をしている人を支える慢性期看護の役割が理解できる。さらに慢性期経過をたどる「がん」治療を中心としたがん看護、終末期看護などについて疾患や症状をふまえて代表的な慢性疾患から患者の特徴と看護の展開方法を習得する。 | 慢性期看護、がん看護、終末期看護、セルフマネージメント |

授業における学修の到達目標

| 学習教育目標<br>(卒業認定・学位授与の方針との関連) | 自己形成を進める行動目標<br>(福短マトリックスで示される番号) 2. 3. 5. 6. 8 |
|---|---|
| A 知識・理解力 | 1年次に習得した看護理論，病態生理を再確認しながら理解することができる |
| B 専門的技術 | 状況や関係を把握し疾患看護の技術を習得することができる |
| C 論理的思考力 | さまざまな情報や知識を得て，大局的・論理的に分析することができる |
| F チームワーク・リーダーシップ | 演習において、解決に必要な情報収集・分析・具体的な支援策を考え，次の支援に繋げていくことができる |

成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする

| テスト: 50 % | レポート: 40 % | 発表: % | 実技試験: % | その他: 10 % |
|---|---|---|---|---|

特記事項:ﾃｽﾄ・ﾚﾎﾟｰﾄ・発表・実技試験等の実施時期:終講試験は実施しません。評価について授業前の事前課題レポート、授業時間に実施する小テスト、自己学習課題の結果をもとに総もとに総合的に評価をします。

アクティブラーニング要素:
(課題解決型学習) ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 課題レポートはコメント記入して返却後、授業中それを持参し活かすこと。次週授業前にレポー内容を含めた小テストを実施 する。

| 授 業 計 画 | 準備学習(予習・復習等) 学習内容 | 学習に必要な時間(分) |
|---|---|---|
| ①成人慢性期の特徴および慢性疾患の種類、疾病、看護の役割 | 【予習】第1章(慢性期看護)熟読<br>【復習】①の復習 | 【予習】120分【復習】120分 |
| ②慢性の呼吸機能障害をもつ患者における看護の役割(慢性閉塞性肺疾患) | 【予習】4章-Ⅰ熟読(慢性閉塞性肺疾患)<br>【復習】②の復習 | 【予習】120分【復習】120分 |
| ③慢性の呼吸機能障害をもつ患者における看護の役割(気管支喘息) | 【予習】4章-Ⅱ熟読(気管支喘息)<br>【復習】③の復習 | 【予習】120分【復習】120分 |
| ④慢性の循環機能障害をもつ患者における看護の役割(高血圧) | 【予習】4章-Ⅲを熟読(高血圧)<br>【復習】④の復習 | 【予習】120分【復習】120分 |
| ⑤慢性の循環機能障害をもつ患者における看護の役割(慢性心不全) | 【予習】5章6章を熟読(慢性心不全)<br>【復習】⑤の復習 | 【予習】120分【復習】120分 |
| ⑥身体防御機能障害ををもつ患者における看護の役割(慢性腎臓病) | 【予習】4章Ⅷを熟読(慢性腎臓病)<br>【復習】⑪の復讐 | 【予習】120分【復習】120分 |
| ⑦透析療法を受ける患者への看護の役割④ | 【予習】4章Ⅷを熟読(透析療法)<br>【復習】⑫の復習 | 【予習】120分【復習】131分 |
| ⑧慢性の消化機能障害をもつ患者における看護の役割(慢性肝炎) | 【予習】5章5-3を熟読(慢性肝炎)<br>【復習】⑨の復習 | 【予習】120分【復習】120分 |
| ⑨慢性の代謝機能障害をもつ患者における看護の役割(糖尿病) | 【予習】5章5-4(糖尿病),4章(インスリン療法を受ける患者の援助)を熟読<br>【復習】⑩の復習 | 【予習】120分【復習】120分 |
| ⑩身体防御機能障害をもつ患者における看護の役割(貧血) | 【予習】5章5-6を熟読(白血病)<br>【復習】⑮の復習 | 【予習】120分【復習】120分 |
| ⑪放射線治療の特徴と看護の役割(岩城) | 【予習】4章6放射線受ける患者の看護を熟読 (放射線療法)<br>【復習】⑬の復習 | 【予習】120分【復習】120分 |
| ⑫化学療法の特徴と看護の役割(岩城) | 【予習】4章5化学療法を受ける患者の看護を熟読 (化学療法)<br>【復習】⑭の復習 | 【予習】120分【復習】120分 |
| ⑬緩和ケア(岩城) | 【予習】第1章を参照<br>【復習】⑥の復習 | 【予習】120分【復習】120分 |
| ⑭緩和ケア・スピリチュアルケア(岩城) | 【予習】第1章を参照<br>【復習】⑦の復習 | 【予習】120分【復習】120分 |
| ⑮緩和ケアで行われる代替療法/音楽療法(小倉) | 【予習】第1章を参照<br>【復習】⑦の復習 | 【予習】120分【復習】120分 |

| 使用テキスト:1.鈴木久美編,成人看護学 慢性期看護 病気とともに生活する人を支える改訂第3版,南江堂 ISBN978-4-524-24198-9 2.田中越郎,イラストでまなぶ人体のしくみとはたらき第3版,医学書院 ISBN978-4-260-03887-4 | その他参考文献など: |
|---|---|

受講上の留意点(担当者からのメッセージ):成人看護学実習に向けて疾患の理解とアセスメントができるように理解を深めましょう。

看護学科

| 科目名: 高齢者看護学援助論Ⅰ | | | | 担当教員 氏名: | 米山美智代 |
|---|---|---|---|---|---|
| 単 位 | 開講時期(年次・期) | | 科目の区分 | 授業方法 | (卒業要件)必修／選択 | 備考 |
| 1 | 2年次 | 前期 | 専門科目 | 演習 | 必修 | |
| 実務経験を用いてどのような授業を行っているか: | 看護師の実務経験を活かして、看護の場や対象の理解と現状について教授する。 | | | | | |

| 授業科目の学習教育目標の概要: | キーワード |
|---|---|
| 高齢者に特有な症状や疾患・障害に応じた看護に必要な知識を習得する。 | 高齢者 健康逸脱 治療 看護 |

授業における学修の到達目標

| 学習教育目標<br>(卒業認定・学位授与の方針との関連) | 自己形成を進める行動目標<br>(福短マトリックスで示される番号) 2. 5. 6. 7 |
|---|---|
| A 知識・理解力 | 高齢者に多い疾患と看護方法を理解できる |
| B 専門的技術 | 異常を早期発見するために必要な観察のスキルを習得する |
| D 問題解決力 | 健康障害を抱える高齢者のQOLの向上を目指した援助のあり方を検討する |
| | |
| | |

成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする

| テスト: 90 % | レポート: % | 発表: % | 実技試験: % | その他: 10 % |
|---|---|---|---|---|

特記事項:理解度を確認する小テストおよび最終テストで評価する。その他10%は授業態度として授業中の発言回数を評価する。

アクティブラーニング要素:
課題解決型学習　ディスカッション、ディベート　(グループワーク)　プレゼンテーション　実習、フィールドワーク

ﾃｽﾄ・ﾚﾎﾟｰﾄ・発表・実技試験等の実施時期:確認テストを毎回実施する。別に定めた日時に最終テストを行う。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法:中間評価および最終評価は個別に伝達する。

| 授 業 計 画 | 準備学習(予習・復習等) 学習内容 | 学習に必要な時間(分) |
|---|---|---|
| ①治療を必要とする高齢者の看護 | 【予習】テキスト該当箇所を読む<br>【復習】資料の復習 | 【予習】60分<br>【復習】60分 |
| ②症候のアセスメント | 【予習】テキスト該当箇所を読む<br>【復習】資料の復習 | 【予習】60分<br>【復習】60分 |
| ③症候のアセスメント | 【予習】テキスト該当箇所を読む<br>【復習】資料の復習 | 【予習】60分<br>【復習】60分 |
| ④身体疾患のある高齢者の看護(認知機能障害) | 【予習】テキスト該当箇所を読む<br>【復習】資料の復習 | 【予習】60分<br>【復習】60分 |
| ⑤身体疾患のある高齢者の看護(認知機能障害) | 【予習】テキスト該当箇所を読む<br>【復習】資料の復習 | 【予習】60分<br>【復習】60分 |
| ⑥身体疾患のある高齢者の看護(脳卒中) | 【予習】テキスト該当箇所を読む<br>【復習】資料の復習 | 【予習】60分<br>【復習】60分 |
| ⑦身体疾患のある高齢者の看護(心不全) | 【予習】テキスト該当箇所を読む<br>【復習】資料の復習 | 【予習】60分<br>【復習】60分 |
| ⑧身体疾患のある高齢者の看護(骨折) | 【予習】テキスト該当箇所を読む<br>【復習】資料の復習 | 【予習】60分<br>【復習】60分 |
| ⑨ | | |
| ⑩ | | |
| ⑪ | | |
| ⑫ | | |
| ⑬ | | |
| ⑭ | | |
| ⑮ | | |

| 使用テキスト:①北川公子著者代表:系統別看護学講座専門分野Ⅱ老年看護 学(医学書院) ISBN978-4-260-03186-8 ②鳥羽研二他:系統別看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護病態・疾患論(医学書院)ISBN978-4-260-03172-1③高齢者のフィジカルアセスメント、角濱春美、ISBN978-4-8404-6142-9 | その他参考文献など: |
|---|---|

受講上の留意点(担当者からのメッセージ):

看護学科

| 科目名: 高齢者看護学援助論Ⅱ | | | | | 担当教員 氏名: とりまとめ米山美智代 、大橋達子、泉朱子 |
|---|---|---|---|---|---|
| 単 位 | 開講時期(年次・期) | | 科目の区分 | 授業方法 | (卒業要件) 必修／選択 | 備考 |
| 1 | 2年次 | 前期 | 専門科目 | 演習 | 必修 | |
| 実務経験を用いてどのような授業を行っているか: | 高齢者看護に関する臨床経験をもとに、実際の事例を用いた看護過程の検討、認知機能・生活機能の変化への対応などを具体的に解説している。 | | | | |

| 授業科目の学習教育目標の概要: | キーワード |
|---|---|
| 高齢者の特徴を踏まえた看護過程の考え方を理解できる。アセスメント・看護診断・看護計画立案を行い、必要な援助技術の習得を目指す。 | 高齢者、<br>QOL、<br>日常生活、環境調整 |

授業における学修の到達目標

| 学習教育目標<br>(卒業認定・学位授与の方針との関連) | 自己形成を進める行動目標<br>(福短マトリックスで示される番号) 5．6．7．8．9 |
|---|---|
| A 知識・理解力 | 病気や加齢が高齢者の日常生活に及ぼす影響と生活機能の維持・向上への支援方法を理解する |
| B 専門的技術 | 高齢者の特徴に応じた看護技術の実際が分かる |
| D 問題解決力 | 高齢者の健康課題をアセスメントし、看護計画が立案できる |
| G 倫理観 | 援助にあたり、個人の尊厳を守ることができる |
| | |

成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする

| テスト: 0 % | レポート: 50 % | 発表: 40 % | 実技試験: % | その他: 10 % |
|---|---|---|---|---|

特記事項:

アクティブラーニング要素:

課題解決型学習　ディスカッション、ディベート　グループワーク　プレゼンテーション　実習、フィールドワーク

テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: レポートは5つの課題により評価、グループワーク・発表は発表資料および発表態度により評価、その他10%は授業態度・取り組み姿勢や出席状況により評価する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法:レポート等の評価結果は中間で一度フィードバックする。グループワーク・発表も加えた最終評価をフィードバックする。

| 授 業 計 画 | 準備学習(予習・復習等) 学習内容 | 学習に必要な時間(分) |
|---|---|---|
| ①【大橋】高齢者看護の特性 看護過程の考え方(生活行動モデル) | 【予習】テキスト該当箇所を読む<br>【復習】資料の復習 | 【予習】60分<br>【復習】60分 |
| ②【米山】看護過程の展開:アセスメントと看護問題① | 【復習】課題レポートの作成 | 【復習】120分 |
| ③【米山 大橋】看護過程の展開:アセスメントと看護問題② | 【復習】課題レポートの作成 | 【復習】120分 |
| ④【米山】看護過程の展開:看護目標と看護計画① | 【復習】課題レポートの作成 | 【復習】120分 |
| ⑤【米山 大橋】看護過程の展開:看護目標と看護計画② | 【復習】課題レポートの作成 | 【復習】120分 |
| ⑥【大橋】看護過程の展開:関連図① | 【復習】課題レポートの作成 | 【復習】120分 |
| ⑦【大橋 米山】看護過程の展開:関連図② | 【復習】課題レポートの作成 | 【復習】120分 |
| ⑧【米山】看護過程の展開:看護計画と援助計画① | 【復習】課題レポートの作成 | 【復習】120分 |
| ⑨【米山】看護過程の展開:看護計画と援助計画② | 【復習】課題レポートの作成 | 【復習】120分 |
| ⑩【米山】看護過程のまとめ グループワーク | 【復習】課題レポートの作成 | 【復習】120分 |
| ⑪【米山】看護過程のまとめ グループ発表 | 【復習】課題レポートの作成 | 【復習】120分 |
| ⑫【米山】看護過程のまとめ グループ発表 | 【復習】グループ発表の準備 | 【復習】120分 |
| ⑬【米山 大橋 泉 炭谷】看護過程の展開:援助計画の実施①ロールプレイ | 【復習】グループ発表の準備 | 【復習】120分 |
| ⑭【米山 大橋 泉 炭谷】看護過程の展開:援助計画の実施②ロールプレイ | 【復習】グループ発表資料の復習 | 【復習】120分 |
| ⑮【米山】看護過程の展開:評価 | 【復習】グループ発表資料の復習 | 【復習】120分 |

| 使用テキスト:①北川公子著者代表:系統別看護学講座専門分野Ⅱ老年看護 学(医学書院)ISBN978-4-260-03186-8 ②鳥羽研二他:系統別看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護病態・疾患論(医学書院)ISBN978-4-260-03172-1 | その他参考文献など:①泉キヨコ他編集:老年看護技術(メジカルフレンド社)②古田愛子監修:新訂版写真でわかる高齢者ケアアドバンス③山田律子他:老年看護過程(医学書院) |
|---|---|

受講上の留意点(担当者からのメッセージ):テキスト①②は併用するため持参してください。

看護学科

| 科目名： 小児看護学援助論Ⅰ | | | | 担当教員 氏名： 山元 恵子、稲垣 尚恵 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 単 位 | 開講時期（年次・期） | | 科目の区分 | 授業方法 | （卒業要件）必修／選択 | 備考 |
| 1 | 2年次 | 前期 | 専門科目 | 演習 | 必修 | |
| 実務経験を用いてどのような授業を行っているか： | 小児専門病院において管理者・教育者としての実務と技術教本の制作した経験を活かし、子どもと家族の理解と安全な看護技術の実際について講義・演習を行う | | | | | |

| 授業科目の学修教育目標の概要： | キーワード |
|---|---|
| ・1年後期の概論から継続的な学修できるように、健康に問題がある小児と家族の看護援助のための基本的知識と技術を身につける。<br>・事例を通して小児看護に必要な看護過程を学ぶことができる。<br>・「子どもの最善の利益」を考慮した看護技術と知識の統合ができる。 | 障がい・健康問題・小児・家族・「子どもの最善の利益」・看護支援(ケア・技術・指導) |

授業における学修の到達目標

| 学修教育目標（卒業認定・学位授与の方針との関連） | 自己形成を進める行動目標（福短マトリックスで示される番号） 1．2．5．6．7．8． |
|---|---|
| A 知識・理解力 | ①病気や入院や病期別の小児と家族を支援するため基本的な知識を身につける。 |
| B 専門的技術 | ②小児期特有の症状や疾患をもつ小児と家族のへの支援技術を習得する。 |
| C 論理的思考力 | ③さまざまな状況にある小児と家族の現状を理解し、根拠に基づいた支援が実践できる。 |
| D 問題解決力 | ④疾患をもつ子どもと家族の看護についてグループ間で理解を深め、病態生理・経過め支援を考え、関連図を描く。 |
| G 倫理観 | ⑤「子どもの最善の利益」を考慮した臨地実習に向けた準備ができる。 |

成績評価の方法・基準： 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする

| テスト： 50 % | レポート： 20 % | 発表： 20 % | 実技試験： % | その他： 10 % |
|---|---|---|---|---|

特記事項：
グループワークにおける態度・取り組み姿勢や課題内容について評価する

アクティブラーニング要素：
課題解決型学修　ディスカッション、ディベート　グループワーク　プレゼンテーション　実習、フィールドワーク

テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期：

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法：
テストや提出レポートに評価の数値化やコメントを記載して返却する。

| 授 業 計 画 | 準備学修（予習・復習等） 学修内容 | 学修に必要な時間（分） |
|---|---|---|
| ①【山元】 第7章 子どもと家族を取り巻く社会 | 【予習】テキスト付属のDVD視聴とテキストで技術のイメージ化<br>【復習】配布資料の確認と復習 | 【予習】60分【復習】60分 |
| ②【山元】小児看護学①臨床看護学総論:第1章 病気・障害をもつ子どもと家族に与える影響 | | 【予習】60分【復習】60分 |
| ③【山元】臨床看護学総論:第1章 病気・障害をもつ子どもと家族の看護 | 【予習】テキスト付属のDVD視聴とテキストで技術のイメージ化<br>【復習】実施した技術の振り返り。気づきと今後の課題の明確化 | 【予習】60分【復習】60分 |
| ④【山元】臨床看護学総論:第2章 子どもの状況(環境)に特徴づけられる看護(入院・外来) | | 【予習】60分【復習】60分 |
| ⑤【山元】臨床看護学総論:第2章 子どもの状況(環境)に特徴づけられる看護(在宅・災害時) | 【予習】図書館などで参考図書を活用し、課題シートの記入<br>【復習】看護過程に用いるシートの記入と修正の繰り返し | 【予習】60分【復習】60分 |
| ⑥【山元】臨床看護学総論:第3章 子どもにおける疾病の経過と看護(急性期・周術期・) | | 【予習】60分【復習】60分 |
| ⑦【山元】臨床看護学総論:第3章 子どもにおける疾病の経過と看護(終末期) | 【予習】グループ発表に向けて、担当箇所の発表資料作成<br>【復習】他のグループと学びを共有する | 【予習】60分【復習】60分 |
| ⑧【山元】臨床看護学総論:第4章 子どものアセスメントに必要な技術 観察のポイント | | 【予習】60分【復習】60分 |
| ⑨【ゲストスピーカー明橋】臨床看護学総論:第4章 子ども・家族への支援として大切なこと | 【予習】テキストの該当箇所を読む<br>【復習】配布資料の確認と復習 | 【予習】60分【復習】60分 |
| ⑩【山元】臨床看護学総論:第4章 子どものアセスメントに必要な技術と介助 | | 【予習】60分【復習】60分 |
| ⑪【山元・稲垣】臨床看護学総論 第5章 「症状を示す小児の看護」①と手技 | | 【予習】60分【復習】60分 |
| ⑫【山元・稲垣】臨床看護学総論 第5章 「症状を示す小児の看護」②と手技 | | 【予習】60分【復習】60分 |
| ⑬【山元・稲垣】臨床看護学総論 第6章 検査・処置を受ける子どもの看護 | | 【予習】60分【復習】60分 |
| ⑭【山元 】臨床看護学総論 第7・9章 子どもの事故と外傷と虐待と看護 | | 【予習】60分【復習】60分 |
| ⑮【山元】臨床看護学総論 第8章障害のある子どもと家族の看護 | | 【予習】60分【復習】60分 |
| ⑯【山元】評価・ 試験 | | |

| ・新訂第2版 写真でわかる小児看護技術 インターメディカ出版 ISBN 978-4-8996-451-3<br>・ナースの小児科学 改訂7版 中外医学社 ISBN978-4-498-17510-5 | その他参考文献など：<br>小児の疾患と病気の成り立ち等の医学書を参考にする。 |
|---|---|

受講上の留意点（担当者からのメッセージ）：
・こどもの発達段階や身体的特徴をとらえた看護支援・技術・アセスメントを考える場とする。
・小児看護師として「子どもの最善の利益」を守る関わりができる知識・技術の習得を目指す。

看護学科

| 科目名: 母性看護学援助論Ⅰ | | | | 担当教員 氏名: 稲垣 尚恵、山本 朋子 | |
|---|---|---|---|---|---|
| 単　位 | 開講時期(年次・期) | 科目の区分 | 授業方法 | (卒業要件)必修／選択 | 備考 |
| 1 | 2年次　前期 | 専門科目 | 講義 | 必修 | |
| 実務経験を用いてどのような授業を行っているか: | 助産師としての経験を活かし、妊婦・産婦・褥婦、新生児およびその家族の看護における実際の体験を交えながら指導する。 | | | | |

| 授業科目の学習教育目標の概要: | キーワード |
|---|---|
| マタニティサイクルにある女性及び新生児とその家族の特徴を理解し、良好な経過を促すための看護に関する基礎的知識と技術及び態度の習得をめざす。<br>更に、健康障害を持つ女性の看護における基礎的知識の習得をめざす。 | 妊娠　分娩　産褥　胎児　新生児<br>母体の変化　マイナートラブル<br>心理的変化　母子相互作用　母親役割<br>子宮外生活への適応　ハイリスク妊娠 |

授業における学修の到達目標

| 学習教育目標<br>(卒業認定・学位授与の方針との関連) | 自己形成を進める行動目標<br>(福短マトリックスで示される番号) 5. 6. 7. 8. 9. 10 |
|---|---|
| A 知識・理解力 | マタニティサイクルにある女性の心身の変化とケアおよび新生児の特徴とケアについて基本的な知識を学ぶ。 |
| B 専門的技術 | 妊婦・産婦・褥婦・新生児のケアに必要な援助技術を習得する。 |
| C 論理的思考力 | 身体的な一体性から社会的な二者一体性への連続した変化を考える。 |
| D 問題解決力 | 正常または健康障害を持つ対象への援助方法を理解する。 |
| G 倫理観 | 女性の自己決定と生命倫理について理解を深めそれを支えることの意義を学ぶ。 |

成績評価の基準と方法:　以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする

| テスト: 90 % | レポート: % | 発表: % | 実技試験: % | その他: 10 % |
|---|---|---|---|---|

特記事項:視聴覚教材も使用します。授業と並行し実習で活用できるノート作成など、実習に向けた学習を進めることが望ましい。評価には授業態度を含む。

アクティブラーニング要素:
(課題解決型学習)　ディスカッション、ディベート　(グループワーク)　プレゼンテーション　実習、フィールドワーク

テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期:
課題は授業で指示する。授業の理解を確認するために適宜ミニテストを実施する。科目最終試験は8回終了後に実施するので日程を確認すること。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法:ミニテストは解説を行う。テストは必要に応じて解説する。レポートは返却時にコメントを提示する。

| 授業計画 | 準備学習(予習・復習等) 学習内容 | 学習に必要な時間(分) |
|---|---|---|
| ①【稲垣】ガイダンス、妊婦の看護Ⅰ<br>妊娠期の身体的変化、心理・社会的特性 | 【予習】【復習】ガイダンスで提示 | 180分 |
| ②【稲垣】妊婦の看護Ⅱ<br>妊娠期のリスクと健康課題、胎児の発育と健康状態 | 【予習】【復習】テキスト・資料の熟読 | 180分 |
| ③【山本】産婦の看護Ⅰ<br>1. 分娩の要素　2. 分娩の経過　3. 分娩の異常と看護 | 【予習】【復習】テキスト・資料の熟読 | 180分 |
| ④【山本】産婦の看護Ⅱ<br>1. 産婦・胎児、家族のアセスメント・看護 | 【予習】【復習】テキスト・資料の熟読 | 180分 |
| ⑤【山本】褥婦の看護Ⅰ<br>産褥期の身体的変化、心理・社会的変化、褥婦のアセスメント | 【予習】【復習】テキスト・資料の熟読 | 180分 |
| ⑥【山本】褥婦の看護Ⅱ<br>1. 褥婦と家族の看護　2. 産褥の異常と看護 | 【予習】【復習】テキスト・資料の熟読 | 180分 |
| ⑦【稲垣】新生児の看護Ⅰ<br>新生児の特徴とアセスメント | 【予習】【復習】テキスト・資料の熟読 | 180分 |
| ⑧【稲垣】新生児の看護Ⅱ<br>新生児に起こりやすい異常とその看護 | 【予習】【復習】テキスト・資料の熟読 | 180分 |

| 使用テキスト:※①②とも1年次に購入済 | その他参考文献など: |
|---|---|
| ①森恵美 系統看護学講座;専門分野　母性看護学概論　母性看護学[1]<br>ISBN978-4-260-06198-8<br>②森恵美 系統看護学講座;専門分野　母性看護学各論　母性看護学[2]<br>ISBN978-4-260-06197-1<br>③新田真弓　新訂2版　写真でわかる母性看護技術 アドバンス　インターメディカ<br>ISBN978-4-89996-497-1 | 佐世正勝,石村由利子,ウエルネスからみた母性看護過程+病態関連図,医学書院、<br>井上裕美他,「病気がみえるvol10産科」, メディックメディア |

受講上の留意点(担当者からのメッセージ):
マタニティサイクルにある母子の身体的変化を学ぶ上で、基本となる“からだの構造と機能”について事前に学習しておくことが望ましい。
また、母性看護学に関連する新聞記事や図書に目を通し、母子と家族をめぐる社会状況に関心を持ちながら講義に臨みましょう。

看護学科

| 科目名: 基礎看護学実習Ⅱ | | | | | 担当教員 氏名: 高橋絹代(とりまとめ)その他 |
|---|---|---|---|---|---|
| 単 位 | 開講時期(年次・期) | | 科目の区分 | 授業方法 | (卒業要件)必修/選択 | 備考 |
| 2 | 2年次 | 前期 | 専門科目 | 実習 | 必修 | |
| 実務経験を用いてどのような授業を行っているか: | | | | | | |

| 授業科目の学習教育目標の概要: | キーワード |
|---|---|
| 健康上の問題を有する受持ち患者を総合的に理解し、科学的根拠に基づいた観察と看護過程に沿った展開が行える基礎能力を養う。 | コミュニケーション<br>看護過程<br>生活援助技術<br>回復促進援助技術 |

授業における学修の到達目標

| 学習教育目標<br>(卒業認定・学位授与の方針との関連) | 自己形成を進める行動目標<br>(福短マトリックスで示される番号) 5. 6. 7. 8. 9. 10 |
|---|---|
| A 知識・理解力 | 看護技術論Ⅱで学んだ看護過程の知識を活かし、それぞれの段階を経験することにより、看護過程の理解を深める |
| B 専門的技術 | 生活行動援助技術論、回復促進援助技術論の理論を元に患者に必要な援助を考え、実践できる |
| C 論理的思考力 | 患者の疾患の一般的病態、治療、看護を理解し、情報から得た患者の状態と合わせ論理的にアセスメントをすすめることができる |
| E 自己管理力 | 病院での実習を、必要な睡眠時間をとり自己の健康管理を行い、休まずに実習を行うことができる |
| H コミュニケーション力 | 実習グループのメンバーと良好なコミュニケーションをとり、相互に学びを共有し有意義な実習を行う |

成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする

| テスト: % | レポート: 60 % | 発表: % | 実技試験: % | その他: 40 % |
|---|---|---|---|---|

特記事項:

アクティブラーニング要素:
(課題解決型学習) ディスカッション、ディベート (グループワーク) (プレゼンテーション) (実習、フィールドワーク)

ﾃｽﾄ・ﾚﾎﾟｰﾄ・発表・実技試験等の実施時期:

課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法:教員、指導者からの指導があった部分は赤文字で示し、学生は指導に基づき青色で修正し再提出を行う。

| 授 業 計 画 | 準備学習(予習・復習等) 学習内容 | 学習に必要な時間(分) |
|---|---|---|
| 実習期間:2026年7月 | | |
| 厚生連高岡病院 | 受持ち患者の看護に必要な情報を収集する | 予習90分<br>復習90分 |
| 高岡市民病院 | | |
| 済生会高岡病院 | 得られた情報からアセスメントし、看護診断を導き出す | |
| 射水市民病院 | | |
| 済生会富山病院 | 受持ち患者の看護計画を具体的に立案し実施する | |
| かみいち総合病院 | | |
| 富山協立病院 | 看護計画に基づいた評価、修正をする | |
| | | |
| | 看護師に求められる態度を身に付ける | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| 使用テキスト:系統看護学講座 専門分野 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ 第19版 978-4-260-04992-4、系統看護学講座 専門分野 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ 第19版 978-4-260-05688-5、基礎・臨床看護技術3版 978-4-260-04790-6 | その他参考文献など: |
|---|---|

受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 遅刻、欠席は原則認めない。健康管理を十分に行い実習に臨むこと。
実習場所ではスタッフの一員としての自覚を持ち、挨拶、報告・連絡・相談がきちんと行えるようにしておく。1年後期の看護技術論Ⅱ及び各領域の看護過程の学修を基に、実習がさらに深く学べるように準備しておく。

看護学科

226看2-34看護研究Ⅰ

| 科目名：　看護研究Ⅰ（看護研究の基礎） | | | 担当教員　氏名：　岩城直子　坂東紀代美 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 単　位 | 開講時期（年次・期） | | 科目の区分 | 授業方法 | （卒業要件）必修／選択 | 備考 |
| 1 | 2年次 | 前期 | 専門科目 | 講義 | 必修 | |
| 実務経験を用いてどのような授業を行っているか： | 看護師としての経験や大学院での研究プロセスで学んだ知識を活かして実践と研究の関係などについて講義する | | | | | |

| 授業科目の学習教育目標の概要： | キーワード |
|---|---|
| エビデンスの積み重ねによって看護を発展させることが必要であり、そのための基礎的な知識を身につけることを目標とする。研究法を学ぶことで、問題発見、問題分析、問題探求、論理的思考などの能力を身につけることを目指す。 | 看護研究　学会　文献検索<br>倫理的配慮 |

授業における学修の到達目標

| 学習教育目標（卒業認定・学位授与の方針との関連） | 自己形成を進める行動目標（福短マトリックスで示される番号）　1．3．6．9 |
|---|---|
| A　知識・理解力 | 看護師として成長し続ける基礎を作るために<br>・看護師が研究活動を行う意義について述べることができる。<br>研究方法の種類などについて述べることができる。 |
| B　専門的技術 | ・興味のあるテーマについて文献検索し、焦点を絞ることができる。<br>・研究論文についてクリティークを行うことができる。 |
| C　論理的思考力 | |
| D　問題解決力 | |
| G　倫理観 | ・研究における倫理的配慮について述べることができる。 |

成績評価の方法・基準：　以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする

| テスト：　70　% | レポート：　20　% | 発表：　　% | 実技試験：　　% | その他：　10　% |
|---|---|---|---|---|

特記事項：

アクティブラーニング要素：

課題解決型学習　　ディスカッション、ディベート　　グループワーク　　プレゼンテーション　　実習、フィールドワーク

テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期：次回講義までレポート記入し提出

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法：提出レポートにコメントを記載し返却

| 授　業　計　画 | 準備学習（予習・復習等） 学習内容 | 学習に必要な時間（分） |
|---|---|---|
| ①ガイダンス　看護研究とは | 【予習】序章　第1章を熟読<br>【復習】テキスト配布資料復習 | 【予習】120分<br>【復習】120分 |
| ②看護研究の始め方　文献レビューとその方法 | 【予習】第2章　第3章を熟読<br>【復習】テキスト配布資料復習レポート課題に取り組む | 【予習】120分<br>【復習】120分 |
| ③研究における倫理的配慮 | 【予習】第4章を熟読<br>【復習】テキスト配布資料復習 | 【予習】120分<br>【復習】120分 |
| ④研究デザイン | 【予習】第5章を熟読<br>【復習】テキスト配布資料復習 | 【予習】120分<br>【復習】120分 |
| ⑤「研究力をつける」 データの収集 | 【予習】第6章を熟読<br>【復習】テキスト配布資料復習 | 【予習】120分<br>【復習】120分 |
| ⑥データの分析 | 【予習】第7章を熟読<br>【復習】テキスト配布資料復習 | 【予習】120分<br>【復習】120分 |
| ⑦研究計画書の作成　研究を伝える | 【予習】第8章　第9章を熟読<br>【復習】テキスト配布資料復習 | 【予習】120分<br>【復習】120分 |
| ⑧ケースレポート・事例研究の進め方 | 【予習】第10章を熟読<br>【復習】テキスト配布資料復習 | 【予習】120分<br>【復習】120分 |
| ⑨ | | |
| ⑩ | | |
| ⑪ | | |
| ⑫ | | |
| ⑬ | | |
| ⑭ | | |
| ⑮ | | |

| 使用テキスト：看護研究（系統看護学講座　別巻）、医学書院、ISBN978-4-260-02182-1　C3347 | その他参考文献など： |
|---|---|

受講上の留意点（担当者からのメッセージ）：2年次後期の「看護研究Ⅱ」で 研究計画書を作成・発表するために必要な知識を獲得してください。